

平成 30 年度 学校評価（学校関係者評価委員会資料）				
本年度の 重点目標	確かな学力と逞しく生きる人間力の主体的育成 （「校訓」知・仁・勇の推進－文武両道－）			
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価	評価結果と課題
防災意識の定着（総務）	生徒の防災意識を高める取組み	・「高校生防災セミナー」に参加し、防災のリーダーを養成する。 ・避難訓練のあり方の検討を行なう。	B	・「高校生防災セミナー」には生徒4名と教員1名が、夏休み中に4日間、冬休み中に1日間参加した。12月26日のグループ発表の準備では、木曽川、日光川の堤防の調査を行い、市役所に出かけ防災担当者の方からお話を伺う機会を得た。当日の発表では、「生きる！」をキャッチフレーズに見事な発表を行った。参加した生徒の防災のリーダーとしての自覚をこれからもっと養っていきたい。 ・来年度の避難訓練の在り方についてはまだ検討段階である。これからも検討を重ね、より現実的な内容にしていきたい。
教育活動の充実（教務）	ポートフォリオの作成	・総合的な学習の時間の活動記録や評価を蓄積しておくポートフォリオの作成をする。	B	・総合的な学習の時間で使用したワークシート等を、生徒たちは紙のファイルに綴じ、教室で保管している。大学等に出願する時に、活動の内容を生徒たちが出願書類にきちんと書くことができるように、改良していきたい。また、教員も調査書に記入をすることができるようにしていきたい。
	新学習指導要領や外部検定試験の研究	・新たに改訂される学習指導要領や外部検定試験に関して、情報を集め、それを各教科で共有する。	B	・各教科に情報収集をお願いした。来年度は、教科主任会や教育課程委員会を多く開き、情報の共有を行い、よりよい教育課程編成の準備を行っていきたい。外部検定試験においては、来年度、4技能のGTECを検定として行うことができるように、環境を整えた。大学入学英語成績提供システムを利用する際に、生徒が適切な選択をすることができるように、データを蓄積していきたい。
交通マナーを守る指導の充実（生徒指導）	近隣住民に配慮したマナーを身につけさせる。	・登校時の交通安全指導を充実させる。 ・HRなどで意識を高める指導を充実させる。	B	・交通安全指導の一環として行っている遅刻防止週間の指導場所を変更する等状況に合わせた対応を行った。声をかけることにより生徒の意識は変わるが、特に下校時の自転車並列走行などが課題として残っている。 ・近隣住民からの指摘があったときに各クラスであらためて指導を行った。しかし、苦情がゼロになることは無いので、継続的に指導を行っていきたい。
進路指導の実践（進路指導）	「進路実現のための3年間の学習指導・進路指導計画」の活用	・「進路実現のための3年間の学習指導・進路指導計画」に沿った指導を共通理解の元に実施する。特に家庭学習時間の達成度の確認を定期的に全校で行うなど、進路実現に向けた意識の向上を図る。	A	・昨年度途中から実施した「学習習慣確認週間」を年度初めからおこなった。各生徒が学習時間や内容の見直すとともに、担任や部活動顧問の指導にも役立った。次年度も継続して行いたい。 - また、「進路実現のために」に総合的な学習の時間やL.Tの記録を書き込むシートに加え、学習時間振り返りシートや定期テスト・模試の結果を記入するページもつけた。ポートフォリオ作成に役立つことを目的にしているが、成績に関するページはプライバシーを守るとともにと保存のしやすさを考え、切り離せる形に変えていきたい。
	学力向上を図る体制の整備	・PTA学習委員会と共に、土曜学習会、補習等の学習支援活動を行う。	B	・PTA学習委員会の支援のもとで、土曜学習や補習などの学習活動を適切に実施することができた。ただし、1・2年生の土曜学習に関しては、生徒及び職員の休日負担を考慮して、その運営の仕方を次年度の課題にしていきたい。
	キャリア教育の充実	・教務部が作成したキャリア教育計画に基づき、インターシップの報告会や外部講師による講演会などを行う。	A	・教務部が作成したキャリア教育計画に基づき、キャリアプランニング講座を1回増やすとともに、2年生が行っていた学部学科研究に1年生も参加するようにした。キャリアプランニング講座は好評であったが、学部学科研究に関しては1年生向けにどんな学部・学科があるかを紹介するような内容に変えていきたい。
生徒の安全と健康（保健厚生）	学校内の環境美化	・週2回の一斉清掃と特別清掃を行い、校内美化活動を充実させる。 ・学年ごとに、除草活動を年1回実施する。	A	・週2回の一斉清掃、特別清掃（学年除草）を通して校内美化活動に取り組むことができた。 - ペットボトルのゴミが多いので減量を呼び掛けていきたい。 ・学年除草については天候の関係で期日を変更した学年もあるが、予定通り行うことができた。
	校内の環境整備	・大掃除ごとに安全点検を実施し、施設・設備・備品等の安全確保を図る。	B	・毎月、安全点検を実施してその都度修繕・補修に努めた。
	生徒の心身の健康把握	・定期健康診断や毎日の健康観察等を活用して、生徒の心身の健康状態を把握し保健指導や相談活動に役立てる。	A	・定期健康診断、健康観察については予定通り実施できた。 ・メンタルな問題を抱える生徒がどの学年にも見られ、保健室利用も多くみられた。担任や学年、相談部会と学校カウンセラーとも連携を図り対応することができた。
学校行事の活性化（生徒会）	リーダーの育成	・各行事の運営に生徒会だけでなく、各種委員会とも連携させる。	B	・球技大会や学校祭などの学校行事について、議会を通して各クラスの議員や代表者と連携し、各行事を行うことはできた。しかし、教員のはたらきかけの部分がが多く、生徒会執行部の生徒が中心となってまとめていく場面が少なかった。
図書館の利用推進と読書習慣の普及（図書）	図書館の利用推進と蔵書管理システムの確立	・図書館の蔵書について、バーコードでの管理を推進し、貸出業務の利便性を高めるとともに、蔵書管理システムの構築を図る。	B	・新規購入図書についてはバーコードによる管理ができています。古い蔵書は夏季休業中にバーコード変換登録を進めているが、まだ全蔵書の変換はできておらず、従来のカードによる貸出し業務と並行している。
	全校生徒への読書習慣の普及と定着	・図書委員会を生かした図書館の年間行事を実施し、読書習慣の普及と定着を勧める。	A	・図書委員の広報誌、図書館報の発行、図書館まつり、朝の読書週間、新入生及び夏休みの読書感想文コンクールへの参加、図書委員と教育実習生を交えた読書会、1年生の読書会などの行事を通じて図書館や読書への啓発活動を行なっている。また、自学自習の場としても多くの生徒が利用しており、図書館の存在が定着しつつある。しかし、活字離れの傾向は顕著であり、また、対象の書物も「やわらかく、偏った」ものとなる傾向で、今後、難解な書物に挑む姿勢を養いたい。
研修研究の充実と校務の情報化（研修情報）	国際理解教育の充実	・大学等と連携をとりながら模擬授業や講演などを実施し、国際理解への意識の高揚を図る。	A	・国際理解コースの生徒に対する模擬授業を1年生で3回（5月・8月・10月）、2年生で2回（9月・11月）行った。1年生は南山大学の先生の授業を受講した。2年生は大学と企業から講師を招いて、幅広い知見に基づく「国際理解とは何か」について学んだ。
	現職研修の充実	・公開授業週間を設け、授業参観等を通じて、教科指導力の向上を目指す。	B	・1年生全体では日本福祉大学の先生、2年生全体ではJICAから講師を招いて、国際理解をより深く学ぶ機会を設けた。また、1年生では昨年度から引き続き海外研修に参加した生徒の発表の機会を設けた。身近な存在の発表によって、国際理解がより深まるきっかけとなった。 ・公開授業週間は年間2回（6月、10月）行った。今後教科の枠を超えた教科指導の研修の場になると、より一層効果が上がるであろう。
		・県立学校情報化推進研修受講者による伝達講習会を実施する。	A	・情報関係の現職研修を年2回（10月、11月）行った。今年度は、全職員に対する研修に加えて、Microsoft Officeに関するレベル別の研修を実施した。参加人数は多くはなかったが、より理解が深まる研修として、今後も実施していきたい。